

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28～30年度:計画作成主体:鶴岡市農業振興協議会)(山形県)

取組の概要

- 対象品目 : 水稻
 (産地面積651.98ha)
- 主な取組主体 : 地元農業者
- 成果目標 : 生産コストの10%以上の削減
 基準(H28年度) 120,481円/10a
 目標(R2年度) 108,339円/10a
- 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース:トラクター、田植機、多目的作業機、コンバイン、肥料散布機、プラウ、バーチカルハロー、レーザーレベラー、レーザコンセット、遠赤乾燥機、育苗器、光選別機、籾摺機)



山形県
 鶴岡市
 鶴岡、羽黒、藤島、櫛引、朝日、
 温海地区

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

本地域は全国でも有数の米どころであり、「つや姫」や「はえぬき」を代表とする鶴岡産米は需要者から高評価を得ているが、強靱な産地形成を図るためには、低コスト生産に向けた取組を進め収益率の向上を図る必要がある。

そのため、高性能機械のリース導入によって作業効率の向上による労働時間の削減とともに、肥料や農薬を安価なものへの切り替えによる物財費の削減、中間管理機構を活用した農地集積や規模拡大、先進的省力技術(直播、疎植栽培、密苗栽培)の導入・拡大を図ることで、生産コストの削減を図る。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①規模拡大に伴い高性能機械をリース導入して作業効率を高めて労働時間を削減する
- ②肥料や農薬を安価なものに切り替え、物財費を削減する
- ③農地集積と規模拡大を行う(一部、中間管理機構を活用)
- ④直播栽培や疎植栽培(37～60株/坪)、密苗等の省力技術を導入・拡大し、コスト削減方法を確立するとともに生産性向上を図る

産地体制

普及指導センター、市、農業協同組合が連携して事業を推進

- ・山形県庄内総合支庁 農業技術普及課
- ・鶴岡市
- ・JA鶴岡
- ・JA庄内たがわ

取組主体
 (地元農業者)

指導・助言

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・安価な肥料・農薬への切り替えによる物財費削減
- ・中間管理機構を活用した農地集積と規模拡大
- ・疎植、密苗等の省力技術導入によるコスト削減

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①高性能機械の導入により作業効率があがり、労働時間と生産コストを削減

【事業実施による間接効果】

- ①安価な肥料・農薬への切り替えにより物財費が削減
- ②農地集積と規模拡大により、作業効率が向上
- ③疎植、密苗等の省力技術導入により生産コストが削減



生産コストが
11.8%削減
 (達成率117.4%)

